

海辺に立地するグランピング施設に関する研究

—西日本を対象とした地図分析—

Research on glamping facilities located on the seaside

—Map analysis targeting western Japan—

○石田大誠¹, 寺口敬秀² 桜井慎一², 五江渕佑真³

*Taisei Ishida¹, Takahide Terakuchi², Shin-ichi Sakurai², Yuma Goebuchi³

Currently, among all the camping sites nationwide, 15% are situated by the seaside. In contrast, among all glamping facilities across the country, 28% are located by the seaside, almost doubling the proportion compared to camping sites. With this disparity in mind, this paper focuses on seaside glamping facilities in western Japan. Through an examination of the geographical characteristics and location conditions, it was revealed that these facilities predominantly stand on or adjacent to sandy beaches. Additionally, it was noted that the type of accommodations used varies based on the climate of each region.

1. 研究背景および目的

現在、日本には2000か所以上のキャンプ場があり、そのうち海辺に立地するキャンプ場の割合は15%となっている^[1]。一方で、グランピング施設は354か所以上あり、そのうち海辺に立地するグランピング施設の割合は28%と、キャンプ場のおよそ2倍となっている。これは、ウォーターフロントの景観の良さや多様なアクティビティを選択できるという利点が影響していると考えられる。しかし、海辺に立地するグランピング施設は、強風や潮風などの厳しい自然条件にさらされるという課題がある。

そこで本研究は、海辺の特性に配慮したグランピング施設の整備計画を立てる際の一助となることを目的に、西日本の海辺に立地するグランピング施設を対象として、海辺の地理的特性や、立地条件の把握を行う。

2. 研究方法

グランピング施設総合予約サイト GLAMPICKS^[2]にて「海」という項目で検索し表示された100か所のグランピング施設のうち、西日本に立地する39か所を対象とし、Google Earthを用いて対象の地図分析を行った(表1)。なお、グランピング施設の位置づけ、一般社団法人日本グランピング協会^[3]に問い合わせを行ったところ、「日本ではホテル旅館などのハードと誤解されており、宿泊施設と混在している」という回答があったことから、本調査ではコテージのような一軒貸しを行っていて「グランピング」と付く施設は対象外とした。

3. 調査結果および考察

3-1. グランピング施設の立地条件

西日本の施設の立地条件の割合(表2)では、「砂浜

表1. 調査概要

調査対象	GLAMPICKSに掲載されている473か所の施設のうち、西日本の海辺に立地するグランピング施設39か所
調査方法	Google Earthを用いた地図分析、インターネットを用いた文献調査
調査内容	Google Earthを用いて施設の標高、海からの距離、立地条件、周辺施設の分布などの調査、周辺地域の過去の気象データの整理

表2. 各地域の立地条件ごとの割合

	砂浜上または背後地	岩場の背後地	崖の背後地	防風・防砂林の背後地	河口付近	護岸の背後地	漁港・港湾内	マリーナ
瀬戸内海	75.0% (9/12)	0.0% (0/12)	0.0% (0/12)	0.0% (0/12)	33.3% (4/12)	50.0% (6/12)	0.0% (0/12)	0.0% (0/12)
日本海側	85.7% (6/7)	28.6% (2/7)	14.3% (1/7)	0.0% (0/7)	14.3% (1/7)	0.0% (0/7)	0.0% (0/7)	0.0% (0/7)
太平洋側	61.1% (11/18)	22.2% (4/18)	11.1% (2/18)	11.1% (2/18)	5.6% (1/18)	22.2% (4/18)	5.6% (1/18)	0.0% (0/18)
合計	69.2% (27/39)	15.4% (6/39)	7.7% (3/39)	5.1% (2/39)	20.5% (8/39)	28.2% (11/39)	2.6% (1/39)	2.6% (1/39)

上または背後地」が69.2%と最も高かった。次いで「護岸の背後地」の28.2%、「河口付近」の20.5%、「岩場の背後地」の15.4%であった。また、「砂浜上または背後地」が最も高かった地域は日本海側で85.7%となり、西日本全体よりも15%ほど高くなった。次に各地域の「護岸の背後地」の値を見ると、瀬戸内海が50.0%と最も高い。また、西日本全体の「護岸の背後地」の値と比較すると20%以上高くなっている。

3-2. 立地条件ごとの敷地から海までの距離

立地条件ごとの敷地から海までの距離(表3)の「砂浜上または背後地に立地する施設の敷地から海までの距離」では、「0m以上10m未満」の範囲は7.4%であるのに対し、「10m以上30m未満」の範囲は33.3%と値が

1: 日大理工・学部・海建 2: 日大理工・教員・海建 3: 日大理工・院(前)・海建



写真1. テントタイプ
(出典：モビリティリゾートもてぎ公式サイト)



写真1. テントタイプ (玉ねぎ型)
(出典：グランエレメント滋賀公式サイト)



写真1. テントタイプ (サファリテント)
(出典：伊勢志摩エバーグレイズ公式サイト)



写真2. ドームテント
(出典：UFUFU VILLAGE 公式サイト)



写真3. コテージタイプ
(出典：BAYSIDE KANAYA 公式サイト)



写真4. トレーラーハウス
(出典：FRANPING VILLAGE 公式サイト)

4倍以上になっている。また、「10m以上50m未満」に範囲を広げると、63.0%と半数以上の施設が比較的海に近く、砂浜上か砂浜のすぐ後ろの空間に立地していることがわかる。「護岸の背後地に立地する施設の敷地から海までの距離」では、「0m以上10m未満」の範囲が27.2%となった。また、「0m以上30m未満」に範囲を広げると72.7%と、多くの施設が海のすぐ近くに立地していることがわかる。

3-3. 各地域の客室タイプの違い

各地域の客室タイプの導入率(表4)では、「テントタイプ」(写真1)が「西日本」で74.4%と最も高くなった。また、各地域の導入率を見ると、「九州北部」と「伊勢志摩」、「日本海側」では100%と、すべての施設で、テントタイプが導入されている。次いで「瀬戸内海」でも83.3%と、高い導入率となっている。一方で、これらの地域とは対照的なのが「九州南部・沖縄」の37.5%と、非常に低い値となっている。しかし、各地域の「トレーラーハウス」(写真4)の導入率を見ると、「九州北部」と「伊勢志摩」、「日本海側」では0%となっているのに対し、「九州南部・沖縄」の値は75.0%と、非常に高くなっている。「ドームテント」(写真2)では、「西日本」で20.5%となっているが、「日本海側」で57.1%となっており、次いで「九州北部」で42.9%と、倍以上の値となっている。

表3. 立地条件ごとの敷地から海までの距離

調査内容	結果
砂浜上または背後地に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	7.4%(2/27)
10m以上30m未満	33.3%(9/27)
30m以上50m未満	29.6%(8/27)
50m以上100m未満	11.1%(3/27)
100m以上200m未満	14.8%(4/27)
200m以上	3.7%(1/27)
岩場の背後地に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	16.7%(1/6)
10m以上30m未満	0.0%(0/6)
30m以上50m未満	33.3%(2/6)
50m以上100m未満	50.0%(3/6)
100m以上200m未満	0.0%(0/6)
200m以上	0.0%(0/6)
崖の背後地に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	0.0%(0/3)
10m以上30m未満	0.0%(0/3)
30m以上50m未満	33.3%(1/3)
50m以上100m未満	66.7%(2/3)
100m以上200m未満	0.0%(0/3)
200m以上	0.0%(0/3)
防風・防砂林の背後地に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	0.0%(0/2)
10m以上30m未満	0.0%(0/2)
30m以上50m未満	0.0%(0/2)
50m以上100m未満	50.0%(1/2)
100m以上200m未満	50.0%(1/2)
200m以上	0.0%(0/2)
河口付近に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	0.0%(0/8)
10m以上30m未満	50.0%(4/8)
30m以上50m未満	12.5%(1/8)
50m以上100m未満	25.0%(2/8)
100m以上200m未満	12.5%(1/8)
200m以上	0.0%(0/8)
護岸の背後地に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	27.2%(3/11)
10m以上30m未満	45.4%(5/11)
30m以上50m未満	0.0%(0/11)
50m以上100m未満	0.0%(0/11)
100m以上200m未満	27.3%(3/11)
200m以上	0.0%(0/11)
漁港・港湾内に立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	100%(1/1)
10m以上30m未満	0.0%(0/1)
30m以上50m未満	0.0%(0/1)
50m以上100m未満	0.0%(0/1)
100m以上200m未満	0.0%(0/1)
200m以上	0.0%(0/1)
マリーナに立地する施設の敷地から海までの距離	
0m以上10m未満	0.0%(0/1)
10m以上30m未満	100%(1/1)
30m以上50m未満	0.0%(0/1)
50m以上100m未満	0.0%(0/1)
100m以上200m未満	0.0%(0/1)
200m以上	0.0%(0/1)

表4. 各地域の客室タイプの導入率

	テントタイプの導入率	ドームテントの導入率	コテージタイプの導入率	トレーラーハウスの導入率	施設数
九州南部・沖縄	37.5%(3/8)	12.5%(1/8)	25.0%(2/8)	75.0%(6/8)	8
九州北部	100%(7/7)	42.9%(3/7)	28.6%(2/7)	0.0%(0/7)	7
瀬戸内海	83.3%(10/12)	16.7%(2/12)	50.0%(6/12)	25.0%(3/12)	12
伊勢志摩	100%(6/6)	16.7%(1/6)	33.3%(2/6)	0.0%(0/6)	6
太平洋側	72.2%(13/18)	0.0%(0/18)	16.7%(3/18)	27.8%(5/18)	18
日本海側	100%(7/7)	57.1%(4/7)	28.6%(2/7)	0.0%(0/7)	7
合計	74.4%(29/39)	20.5%(8/39)	35.9%(14/39)	25.6%(10/39)	39

【参考文献】

- [1] なっぷ： <https://www.nap-camp.com/> , 2023. 7. 11 閲覧
- [2] GLAMPICKS: <https://glampicks.jp/> , 2023. 10. 1 閲覧
- [3] 一般社団法人日本グランピング協会: <http://glamping.or.jp/>